慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	クラウドコンピューティングを活用した事業戦略の一考察
Sub Title	
Author	中島, 貴幸(Nakajima, Takayuki) 山根, 節(Yamane, Takashi)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2011
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	最近のITを代表する言葉である「クラウドコンピューティング」。2011年の1年間で日経新聞朝刊に388回も登場し、今最も盛り上がっていると言っても過言ではありません。ただ一方でこのクラウドコンピューティングという言葉、バズワードではないかと考えている人が多く存在するのもまた事実なのです。近年、ITは急速に進歩しており、その目まぐるしく進む様子を称してドッグイヤーとも呼ばれています。そのITの進歩に伴い、新たな呼称が次々と生み出されては消えていく。そんな状況を鑑みると、クラウドコンピューティングもその一つではないかと思われるのも致し方ありません。このような混沌の中、グーグル、アマゾン、セールスフォース・ドットコムなどのネット企業に加えて、マイクロソフト、IBMといった海外の大手ITベンダーからNTTグループ、富士通、日立にいたる国内の大手ITベンダーまで、時流に乗り遅れまいと何かしらのクラウドコンピューティングを謳ったビジョンやサービス、製品を発表しているのが現状なのです。 そこで、これら混沌としている現状をはっきりさせる必要があると考えました。本研究では始めにクラウドコンピューティングの本質を明確にします。それによりクラウドコンピューティングに対する考えを統一させ、クラウドコンピューティングの近未来における方向性を明示していきます。 さらに示したクラウドコンピューティングの方向性において、経営におけるクラウドコンピューティングの活用方法に焦点をあて、事業戦略上どのようなことが重要になるのかを事例を通して、抽出していきます。そして、そのような過程を経て抽出したクラウドコンピューティングの要諦が、ITベンダーによる最適なクラウドサービス構築に寄与することを期待します。
Notes	修士学位論文. 2011年度経営学 第2681号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002011-2681

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文　2011 年度

論文題名

クラウドコンピューティングを活用した事業戦略の一考察

主　査	山根　節
副　査	大林　厚臣
副　査	中村　洋
副　査	

平成 24 年 1 月 6 日　提出

学籍番号	81030893	氏　名	中島　貴幸

論 文 要 旨

所属ゼミ	山根ゼミ	学籍番号	81030893	氏名	中島　貴幸

（論文題名）

クラウドコンピューティングを活用した事業戦略の一考察

（内容の要旨）

最近のITを代表する言葉である「クラウドコンピューティング」。2011年の1年間で日経新聞朝刊に388回も登場し、今最も盛り上がっていると言っても過言ではありません。ただ一方でこのクラウドコンピューティングという言葉、バズワードではないかと考えている人が多く存在するのもまた事実なのです。近年、ITは急速に進歩しており、その目まぐるしく進む様子を称してドッグイヤーとも呼ばれています。その IT の進歩に伴い、新たな呼称が次々と生み出されては消えていく。そんな状況を鑑みると、クラウドコンピューティングもその一つではないかと思われるのも致し方ありません。このような混沌の中、グーグル、アマゾン、セールスフォース・ドットコムなどのネット企業に加えて、マイクロソフト、IBMといった海外の大手ITベンダーからNTTグループ、富士通、日立にいたる国内の大手ITベンダーまで、時流に乗り遅れまいと何かしらのクラウドコンピューティングを謳ったビジョンやサービス、製品を発表しているのが現状なのです。

そこで、これら混沌としている現状をはっきりさせる必要があると考えました。本研究では始めにクラウドコンピューティングの本質を明確にします。それによりクラウドコンピューティングに対する考えを統一させ、クラウドコンピューティングの近未来における方向性を明示していきます。

さらに示したクラウドコンピューティングの方向性において、経営におけるクラウドコンピューティングの活用方法に焦点をあて、事業戦略上どのようなことが重要になるのかを事例を通して、抽出していきます。そして、そのような過程を経て抽出したクラウドコンピューティングの要諦が、ITベンダーによる最適なクラウドサービス構築に寄与することを期待します。